

議員研修報告

市町村議会議員特別研修 (地方行財政コース)

笹木 正文

研修期間

平成22年10月18日から22日

研修地

全国市町村国際文化研修所
(滋賀県大津市)

【はじめに】

5日間の日程で市町村議会議員が対象の特別研修として監査制度のあり方、自治体経営のあり方、自治体財政の健全化について、琵琶湖畔の松がで有名な大津市唐崎の地で研修を受けた。

全国23道府県の市町村から49名の議員が参加した。講師として、総務省自治局から課長が2名、関西学院大学教授が2名、前高浜市長の5名の講師陣から講義を受けた。また、自治体の事例紹介として、東近江市と赤平市からそれぞれ事例発表があった。

【監査制度のあり方】

財政悪化や住民ニーズの多様化を受け自治体改革が大きな課題となっている。地方分権が進むにつれ、前例・形式で業務をこなせば良かった時代は終わり、自治体にも経営の発想が求められるようになってきた。今後、行政経営NPM(ニュー・パブリック・マネジメント)を行う上では、内部統制の中のコンプライアンスと監査機能の強化(外部性・独立性・専門性)が重要になってくる。

【自治体経営のあり方】

福祉政策で知られた前高松市長森氏の5期20年の経験に基づく講義の中で、駅前再開発事業やトヨタ自動車の生産方式の導入を例に、自治体経営は住民力・職員力・行政力・財政力などのバランスを整理しながら、持続可能な仕組みが必要。

【自治体財政の健全化】

国は国庫補助金改革、税源移譲、地方交付税削減の三位一体改革を推進し、地方自らの責任において住民サービスを選択できる行財政システム

の構築を図っている。そんな中で市町村議員は財務諸表の内容をより深く理解する必要があり、この研修では、参加した49の市町村の財務諸表を比較しながら健全財政の在り方と各財務諸表から読み取れる問題点を提起し、自身の自治体の内容を精査する作業を行った。事例紹介は赤平市の財政健全化計画の取り組みが紹介された。

以上の研修を受けた中で、赤平市の産炭地域総合発展基金問題や病院事業会計による財政悪化は聞き及んでいたが、実際に財政健全化計画(あかびらスクラムプラン)の内容の説明を受けて、旧産炭地の厳しさや住民サービスと財政管理のバランスの難しさを知ることができた。

【終わりに】

新十津川町の財政は概ね健全な状況であるが、北海道特有の歳入に占める地方交付税の割合は例外なく高い。今後は、交付金依存体質を少しでも改善できるように町を活性化し、税収増を図るため1次く6次にわたる産業の育成が望まれると実感した。



『議会』を 傍聴しませんか？

次回の定例会は、3月に開かれます。(詳細は防災行政無線でお知らせします。)

編集後記

町民の皆様には、ご家族おそろいで新たな年を迎えられたこととお喜び申し上げます。

昨年(2010年)の世相を現す漢字は「暑」でした。

農業の素人は天気さえ良ければ農作物は順調に成育し、豊作となるものとするのではないのでしょうか。小生もその一人。土地改良、用排水路やかんがい施設の整備が進んだ昨今を思うと好天続きは歓迎すべき事象であると思っていました。結果は最悪となりました。「過ぎたるは及ばざるが如し」、人間が自然を超えることは簡単でないことを感じ入った年でした。

平成23年は、天気も町政もほどほどで推移するよう願っています。

(青田)

【議会広報特別委員会】

委員長 西永 勝治
副委員長 樋坂 里子
委員 青田 良一

山田 秀明
笹木 正文
岩木 雅徳